



2024.3 中学・高等学校 歌津応援プロジェクト

恵泉

題字・河井道
2024年度 第1号
2024年5月31日発行

ご卒業おめでとうございます。皆さんの六年間には、感染症による制限や愚かな戦争など、心を騒がせることがありました。世界はこれからも変わっていきます。皆さんは、大きく変化する時代を生き抜くよう強いられるでしょう。けれども皆さんは恵泉の教育を通して、どんな時でも何があっても自分を大切に生き抜く力を、身に付けました。だから自信を持って、セルフイメージを高く持って、自分を大切に生き抜いてください。

今日は皆さんに、日本の教育の憲法のような「教育基本法」に出てくる二つの言葉を贈ります。第一条は「教育の目的」です。日本の学校は全てこれを目的に教育を行なうと定められています。「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない」。ぜひ初めの二つの言葉、「人格の完成」と「平和」を覚えてください。どちらもキリスト教の素養がなければ理解できない言葉です。

別の目的を提案する意見に対して、絶対に「人格の完成」は譲れない。人間を育てるのと動物を育てるの違いは、人間には尊い人格があることだ。そう主張した当時の文部大臣は、田中耕太郎というクリスチャンでした。諮問委員会の長は南原繁という

クリスチャン。委員会のメンバーに女性は二人だけ。その一人が恵泉の創立者河井道先生でした。大きな犠牲を払ったアジア太平洋戦争が終わり、二度と同じ悲惨を繰り返さないよう、河井先生たちクリスチャンが大きな役割を果たし、教育の大切な基本を定めました。今再び戦争が広がりつつある時、「人格の完成」と「平和」は、私たちが本当の自分を生き、本当の世界を作る大切な手がかりです。

「人格」。河井先生の恩師の一人新渡戸稲造は、元々日本語に

「人格の完成」と「平和」を

目指して生きる

(三月一四日 高等学校卒業式式辞)

学園長 廣瀬 薫

びました。「人格の完成」は教育だけでなく人生そのものの目的です。皆さんは、自分固有の、貴い人格の完成を目指して生きてください。

次に二つ目の言葉「平和」。他の何よりも先に「平和」、「民主的」よりも先に「平和」です。何故かという、委員会のメンバーであった河井道先生が、「平和」を掲げて欲しいと強く求めたからなのです。

今の時代は、尊い人格である人間が大切にされにくく、河井先生が大事にした「平和」が壊

されています。だから、皆さんが恵泉で、教育の本来の目的にぴったり合った、良い教育を受けたことは貴重なのです。それをこの先も大切にしたい。

「生涯教育」と言うように、一生学び続け、成長し続け、「人格の完成」と「平和」に向かって歩みを進めてください。私も、この地上の生涯が終わるまで、私が神様から与えられた「人格の完成」と「平和」に向かって歩み続けます。

そして「完成」。キリスト教の世界観は四ポイント、創造、墮罪、回復、完成だと授業で学

た。それを表すのが「恵泉」という名前であり、中庭にある泉であり、そこに刻まれた河井道先生の言葉「No one can make a spring. It is a gift from the Creator.」(誰も泉をつくることはできない。それは創造主からの賜物である)であり、校章のデザイン(ひざまずいて泉から水を汲む乙女)です。皆さんは、見違えるように成長する大切な六年間、人間を活かす命の力をこのキャンパスで身に付けました。だからどんな時でも、何があっても、自信を持って、セルフイメージを高く持って、自分を大切に生き抜いてください。決して自分を粗末にしてはいけない。自分を軽んじてはいけない。もしも気持ちが悪む時には、「恵泉」という名前を思い出し、中庭の泉を思い出し、河井先生の言葉を思い出し、校章の乙女を思い出して、自分を大切に生きる力を燃え立たせてください。

皆さんは、今のような、大人が理想を目指すよりも壊している世界で、個人の尊厳や、平和や、命の尊さを、人が何と言おうと諦めない、新渡戸が言う「譲れぬという断固とした信念」をもって歩む人であり続けてください。皆さんが恵泉で得た土台の上で、自分を大切に活かし、周りの人を大切に活かし、幸いな人生を歩まれるよう、神様の祝福をお祈りしています。